

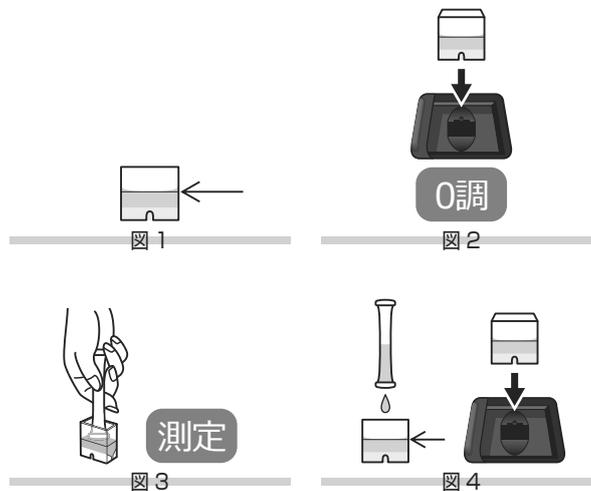
PO₄-P-D りん酸態りん (低濃度)

発色：無色→淡紫→紫
測定原理：酵素を用いた 4- アミノアンチピリン法
測定範囲：0.03 ~ 1.00 mg/L (ppm)
試薬：WAK-PO₄ (D) チューブ
測定時間：チューブに吸い込み後 5 分

セル：専用カップ
使用波長：540 nm, 570 nm

測定方法

1. 【PO₄-P-D】を押します。
2. 【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図3)
6. 5. のチューブを軽く5 ~ 6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図4)
7. 経過5分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. この方法では検水中のイオン状態(PO₄³⁻)のりん酸が測定されます。
加水分解性りん、全りんは測定できません。加水分解性りんおよび全りんを測定する場合には、JIS K 0102 46. に従って前処理を行なってください。
2. 発色時の最適 pH は7 です。pH が6 ~ 9 の範囲をこえる検水は希塩酸または希水酸化ナトリウム溶液等で中和してから測定してください。
3. 検水の温度は15 ~ 30℃で測定してください。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は測定できません。

残留塩素や過酸化水素等の酸化性物質によって発色する場合があります。

例えば、残留塩素1mg/L で0.05mg/L の表示値となります。

また、還元性物質が発色を弱める場合があります。

1000mg/L以下は影響しない	…Ba ²⁺ 、Ca ²⁺ 、Cl ⁻ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、NO ₂ ⁻ 、NO ₃ ⁻
500mg/L	// …B ³⁺ (ほう酸)
250mg/L	// …フェノール
100mg/L	// …Zn ²⁺
50mg/L	// …Cu ²⁺ 、Ni ²⁺ 、SO ₄ ²⁻
20mg/L	// …Mg ²⁺
10mg/L	// …Al ³⁺ 、Cr ³⁺ 、Cr ⁶⁺ (クロム酸)
5mg/L	// …Fe ³⁺ 、Mn ²⁺
1mg/L	// …CN ⁻
少しでも影響する	…Fe ²⁺ 、残留塩素

試薬に関するお知らせ

パックテストに付属の使用法をご参照ください。

測定液は約 pH7 です。